

# 院外処方箋検査結果値の見方

検査結果値に記載されている基準範囲は、一般的に健康である人々の年齢や性別に相応した平均的な数値です。人それぞれ個性があるように、検査値にも個人差があり、さらにその日のコンディションや季節によっても違ってきます。今回の検査結果が身体の異常や病気の存在をあらわすかどうかは、主治医がさまざまな要因を考慮して総合的に判断します。

検査項目	項目名	基準範囲	単位	検査からわかること
WBC	白血球数	3.3-8.6	$\times 10^3/\mu\text{L}$	白血球は細菌などから体を守る働きをしています。数値が高い場合は細菌感染症にかかっているか、炎症、腫瘍の存在が疑われますが、どこの部位で発生しているかはわかりません。たばこを吸っている人は高値となります。数値が低い場合は、ウイルス感染症、薬物アレルギー、再生不良性貧血などが疑われます。
NE(%)	好中球	38.5-80.5	%	細菌や毒素などの異物を処理し、体を外敵から守る働きをしています。好中球に取り込まれた異物は、顆粒中に含まれる酵素や活性酸素により消化、殺菌されます。感染症、炎症等で増加します。
Hb	ヘモグロビン	男13.7-16.8	g/dL	ヘモグロビンは酸素と結合する赤い色素蛋白で赤血球に含まれています。血液の赤い色はヘモグロビンに由来しています。全身の細胞へ酸素を運ぶ中心的な役割を担っています。主に貧血の程度を示唆します。
		女11.6-14.8		
PLT	血小板数	158-348	$\times 10^3/\mu\text{L}$	血小板は、出血したとき、その部分に粘着して出血を止める役割を果たしています。数値が高い場合は血小板血症、鉄欠乏性貧血などが疑われ、低い場合は再生不良性貧血などの骨髓での生産の低下、特異性血小板減少性紫斑病などの体の組織での亢進、肝硬変などの脾臓での捕捉が考えられます。
T-BIL	総ビリルビン	0.40-1.50	mg/dL	胆汁に含まれる色素のことです。胆汁を流す管が詰まったり、肝臓の病気などが原因で高値になります。ただし、病気がなくても体質的にこの値がやや高い方もいます。
AST(GOT)		13-30	U/L	肝臓、骨格筋、心筋、腎臓、赤血球など多くの組織細胞に含まれている酵素で、これらの組織が障害(破壊)された場合、血液中の値が上昇してきます。AST(GOT)は運動により上昇することがあり、また飲酒によっても高値になるので注意が必要です。
ALT(GPT)		男10-42	U/L	ALT(GPT)は肝臓、腎臓、心筋などの組織細胞に含まれる酵素で、特に肝臓に多く含まれており、AST(GOT)よりも肝障害に特異的であるといわれています。
		女 7-23		
CK	クレアチンキナーゼ	男59-248	U/L	心筋、骨格筋、脳の中に含まれる酵素で細胞の損傷で血液中にでてきます。心筋梗塞の時にその障害の程度がわかります。また運動後など筋肉が疲労したときにも高くなります。
		女41-153		
UN	尿素窒素	8.0-20.0	mg/dL	尿素窒素は血液中の尿素の中に含まれる窒素分のことをあらわしています。アンモニアが肝臓で尿素に変換され尿素のほとんどは腎臓でろ過されて尿中に排泄されるため、腎機能の指標として利用されています。腎臓の機能が低下すると、尿素窒素が尿中に排泄されず血液中に増加します。熱傷、消化管出血、高蛋白食摂取でも上昇します。また、肝臓に障害があるときは、尿素が変換されなくなり低値になります。
CRE	クレアチニン	男0.65-1.07	mg/dL	クレアチニンは筋肉内でクレアチンという物質からつくられ血液中に出現し、腎臓でろ過されて尿中に排泄されます。したがって腎機能の低下とともに血中で高値になります。食事の影響をほとんど受けない点で、クレアチニンが腎機能の指標として優れています。クレアチニン生産量は筋肉量と比例するため、男性より女性、成人より小児の方が低めの値をとります。
		女0.46-0.79		
eGFR		60.0以上	mL/min/1.73m <sup>2</sup>	クレアチニンより精度の高い腎機能の指標です。クレアチニン値を性別、年齢で補正して算出します。数値が低いと腎臓の機能が低下していることを意味します。
Na	ナトリウム	138.0-145.0	mEq/L	主に食塩の形で摂取され、血清中に多く含まれる電解質で水分のバランス、浸透圧やpHの調節等大きな役割をしています。副腎皮質ホルモンの指令のもとに腎臓でコントロールされます。体液水分量の平衡状態を推測できます。むくみや脱水などで高値になります。
K	カリウム	3.60-4.80	mEq/L	細胞内液に多く含まれる電解質で、神経の興奮や、からだや心臓の筋肉の働きを助け、腎臓で調節される生命活動の維持に重要な電解質です。腎不全や糖尿病で高値となり、急激な上昇は不整脈を引き起こします。
(補正)Ca	(補正)カルシウム	8.80-10.10	mg/dL	カルシウムの99%は骨にあります。血液中のわずかなカルシウムは筋肉の収縮、血液凝固、神経が刺激を伝える時に重要な働きをしています。これらを調節する副甲状腺や骨の病気などがわかります。
PT(秒)		10.0-13.0	sec	出血した時には、血液が固まり止まれます。これを血液凝固反応と呼び、この働きを調べるための検査です。また血液凝固反応を起こす物質は肝臓で作られるため肝臓の機能を調べる時にも検査します。PTは血管内凝固(血栓)を予防する薬(ワーファリン)の治療効果もみえます。INRはどこの病院で検査しても同じ数値として判断できるように工夫された数値です。
PT(%)	プロトロンビン時間	80.0-120.0	%	
PT(INR)		0.90-1.10		
HbA1c(NGSP)	グリコヘモグロビン HbA1c (NGSP値)	4.6-6.2	%	HbA1c(グリコヘモグロビンエーワンシー)は、採血時点からさかのぼって過去1~2カ月の平均血糖値を反映する指標です。糖尿病の診断に利用できます。また、糖尿病治療コントロール状態の判定に利用されます。